

蕎麦殻に於ける染材としての可能性

～ サステナブル・ファッションに ～

江戸ソバリエ 19 期 大久保慈泉

産業廃棄物として処分される蕎麦殻。この蕎麦殻を使って染色実験を試みてみたところ、美しい色彩が得られる事が確認できた。

今回行った実験で使用したのはシルク 100%の生機スカーフ生地である。

植物染色の弱点である堅牢度（色の定着率）を高め、求める色彩を得るために媒染材を使用しながら3度の重ね染め（割り染色）を行った。

具体的には染色する布の重さの3倍量の染材（蕎麦殻）を煮出し、酢酸を少量加えた染色液と布の重さの10%の媒染剤（実験ではミョウバンを使用）を使い予め熱湯と中性洗剤で汚れを落とし処理しておいた布を染料液→媒染剤→染料液→媒染剤→染料液→媒染剤→染料液という工程で交互に煮染めしながら染色を行った。

他にも媒染剤を変えて染色した物、媒染剤を使用しないで染色した物、他の染材による重ね染めなど、様々な方法によりバリエーション豊かな色彩が得られる事も実験により確認する事が出来た。

蕎麦殻は安全な薬品（媒染剤）のみを使用した割り染色という技法を使って染色する限りにおいては自然界に負荷をかけない「全てを土に還せる」サステナブルなファッションやファブリックの素材として非常に魅力的で可能性に満ちた材料であると言えるのではないだろうか。

①熱湯と中性洗剤によるシルク生地の下処理(汚れ落とし)



②蕎麦殻の煮出し(染料の抽出)



③染色スタート(煮染め)



④ミョウバンによる媒染



⑤スカーフ染め上がり



染色実験

I. 煮染め



II. 3色のスカーフ染め上がり



以上